

おがたのしんでんいせき
小片野新田遺跡（第3次）

土器に付着した水銀朱を発見しました

小片野新田遺跡（第3次）発掘調査は、令和5年12月に終了しました。調査の結果、古墳時代前期の竪穴建物のほか、平安時代末から室町時代（戦国期）の掘立柱建物の柱穴や溝、土坑、ピットなどが確認されました。11月に行われた現地説明会では、遺構の様子や出土遺物を見ていただきました。

遺物を詳しく調べたところ、古墳時代前期の竪穴建物から出土した土師器の鉢や石杵（いしぎね）に、赤色顔料である水銀朱（すいぎんしゅ）が付着していることがわかりました。古来、赤色顔料は神聖な色として土器や木製品に塗られるなど様々な場面で利用されてきています。また、水銀朱の原料である辰砂（しんしゃ）鉱石の採掘跡が、近辺では小片野新田遺跡の北側に位置する太田・臼ヶ谷（おおた・うすがたに）遺跡や、多気町丹生（にゅう）地域で確認されています。これらのことをふまえ、今回発見した水銀朱の使い方や、水銀朱がどこからもたらされたかなど、詳細については今後検討していきます。



水銀朱が付着した石杵（左）や土師器の鉢（右）

問い合わせ先
515-0325
三重県多気郡明和町竹川503
三重県埋蔵文化財センター
担当：中村
電話：0596-52-7028